

## 林野庁プレスリリース（平成 29 年 8 月 28 日）抜粋

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/riyou/170828.html>

林野庁は、毎年、「特用林産物生産統計調査」により、特用林産物の生産量等について調査を行い、その生産動向等について公表しております。今回は、そのうち、「木質粒状燃料（木質ペレット）」の生産量等について公表するものです。

### 『木質粒状燃料（木質ペレット）の生産動向について』

平成 28 年における木質粒状燃料（木質ペレット）の生産量は 12.0 万トン、前年から 0.1 万トンの増加となりました。

都道府県別に見ると、生産量の上位 5 位は、岡山県（23,870 トン、製材残材中心）、沖縄県（20,673 トン、建設発生木材中心）、宮崎県（15,601 トン、丸太・林地残材中心）、北海道（6,619 トン）、秋田県（5,669 トン、製材残材中心）となりました。

沖縄県、岡山県、長野県など 17 県では、生産量が計 1.2 万トン増加したのに対して、宮崎県、秋田県など 23 道府県では、生産量が計 1.2 万トン減少し、結果として前年並みの生産量となりました。

工場数は兵庫県、奈良県など 8 府県で計 10 工場増加する一方で、富山県、鳥取県、岡山県、愛媛県の 4 県で計 4 工場減少したことから、前年比 6 工場増加の 148 工場となりました。

用途別に見ると、燃料用としての生産がほとんどを占め、11.4 万トン（構成比 94.5%）となりました。

原料入手別に見ると製材工場等残材からの生産が 5.2 万トン（構成比 43.6%）、丸太・林地残材からの生産が 4.3 万トン（構成比 35.6%）、建設発生木材が 2.3 万トン（構成比 19.1%）となりました。

丸太・林地残材から生産されたものの樹種別で見ると、スギが 2.6 万トン（構成比 61.3%）、マツが 1.1 万トン（構成比 25.9%）、ヒノキが 0.4 万トン（構成比 9.3%）となりました。

詳細は、添付資料を御覧ください。

#### 〈添付資料〉

[別添 1 「平成 24 年～28 年の木質粒状燃料の生産量、工場数の推移」\(PDF : 89KB\)](#)

[別添 2 「木質粒状燃料の用途別生産量内訳等」\(PDF : 78KB\)](#)

[別添 3 「木質粒状燃料の原料入手区分別生産量及び含水率」\(PDF : 100KB\)](#)

[別添 4 「丸太・林地残材から生産した樹種別生産量」\(PDF : 102KB\)](#)

[参考資料\(PDF : 291KB\)](#)